

“消費税”ネットワーク

第 100 号 2025.02.12

発行 消費税率引き上げをやめ
させるネットワーク宮城

事務局 宮城県生協連

TEL : 022-276-5162

FAX : 022-276-5160

●講演会「和尚から見た日本経済・税金のお話」 開催報告

2025 年 1 月 30 日（木）、フォレスト仙台第 2 フォレストホールをメイン会場としてオンライン併用にて、消費税ネット主催による講演会を開催しました。生協、消費者団体、宮商連などの関係者、事業者、一般市民などオンライン視聴 35 人を含め、110 人が参加しました。

開会にあたり、三戸部尚一代表世話人（宮城県商工団体連合会会長）から、昨年の総選挙で消費税問題を公約に掲げた候補者が多かった、今回の国会で争点にしてほしいし、物の売買やサービスにかかる消費税が増えることについて、声を上げることが大切だとの挨拶がありました。

その後、当ネットワークの世話人である曹洞宗金剛寶山輪王寺住職の日置道隆（どうりゅう）和尚を講師に、『和尚から見た 日本経済・税金のお話』と題してご講演いただきました。

何故かという気づきや表面を見るだけではなくおかしいことをおかしいということが大切、という言葉から始まりました。「経済」は「経世済民」（世を治めて民を救う）から来た言葉で、これが政治の目的である。仏の教えによる衆生済度（民を救い、あらゆるものを良い方向に導くこと）と同じである、と話されました。

バブル崩壊後に何故衰退してきたのかは政府の経済政策の結果で、実質賃金も上がらず貧困化が進んで、弱者が苦しんでいる。他の先進国と比べて政府がお金を使わなかったために、成長できなかった。国の借金があるという理由のために、緊縮財政をし、国民が増税を受け入れ、さらに国の安全保障や国民の命も脅かしている。地方自治体への交付金も減らされ、公共事業費も減らされ、国土を弱体化している。気候変動による災害に対するインフラ整備や教育にも投資が行われず、農業予算も増えないために食料自給率も下がるだけ。予算を削ることだけを政府が考えている。政府がお金を使えば、資金は民間に流れて、経済成長につながる。国の安全安心こそが、未来への贈り物になる。経済が縮小すれば、会社の売上げが減り、給料も上がらず、お金は使われないというスパイラルに陥る。政府がお金を使わなければならない。税金は財源ではなく、お金の巡りを良くするためのもので、国債が実際の財源である、と話を締めくくられました。参加者からは分かりやすい話だったとの感想を頂きました。

消費税がどうして生まれて、大きな負担になっているのか、どのような税金の使い方や在り方が良いのかを考える機会となった学習講演会でした。野崎和夫事務局長（宮城県生協連専務理事）の閉会挨拶で終了しました。



開会挨拶をする三戸部尚一代表世話人



講師の輪王寺住職 日置道隆 和尚



学習講演会会場の様子